



Governor's Monthly Letter

To Club Presidents and Secretaries of
Rotary International District 260

District 260 R.I. Governor

KOICHI OKUMA

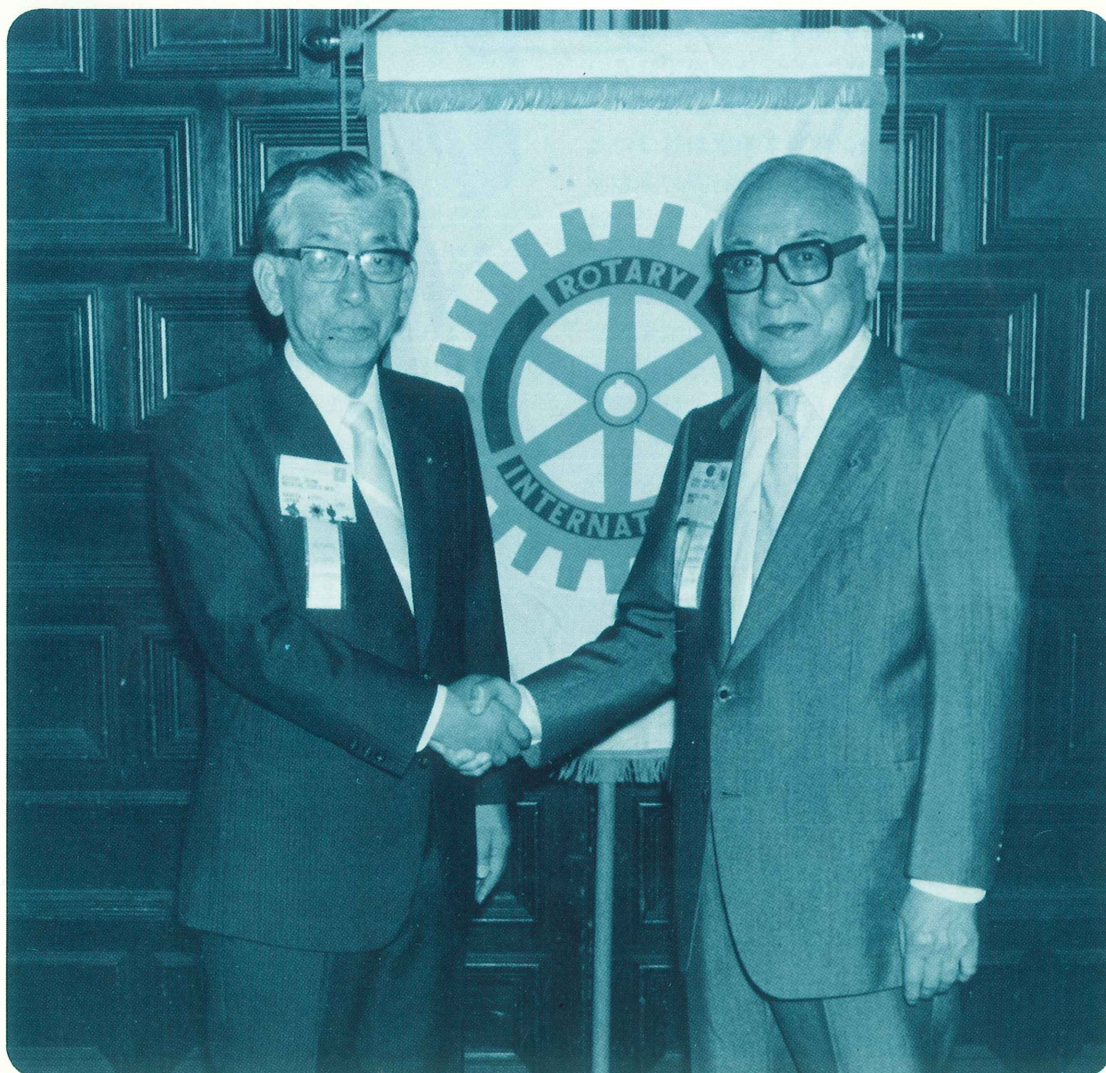
c/o The Nagoya Kanko Hotel

1-19-30 Nishiki, Nakaku, Nagoya, Aichi, Japan 460

Phone: 052-231-7711 (Ext. 527)

国際ロータリー第260地区ガバナー 大隈 孝一

〒460 名古屋市中区錦1丁目19番30号 名古屋観光ホテル内 Phone: 052-231-7711 (内線527)



ボカラトンにて 向笠RI会長と大隈ガバナー

ボカラトンの国際協議会に出席して

ガバナー 大隈 孝一

- (1) 既に前号でご承知のように、向笠R.I.会長のメッセージのテーマは「人類はひとつ」ですが、国際協議会初日のこのテーマの説明は、まことに印象的でありました。

それは、「人間は誰でも2人の親、4人の祖父母があり、これを更にさかのぼると大変な数になることは、容易に想像がつきます。計算すれば、10代前は約1,000人、30代前は10億の親たちがあることになり、要するに現在、地球上にいろいろな人間が生活していますがみな「いとこ」Cousinとってよいのではないのでしょうか。会場の皆さん、立ち上って隣りの人と手を握り合い、改めてお互いに「いとこ」Cousinと言いましょ。」というお話でありました。

全員、大拍手で立ち上り、手を握り合って、お互いに顔を見合わせたことは、大変な感動的光景でありました。

約1週間の会期中は、この「いとこ」Cousinという言葉が大流行で、全くうちとけた雰囲気でもありました。

このことは、今年度の会長のお考えをご理解願うために、是非皆様にお知らせしておきたいと思います。

- (2) ボカラトンでは、世界各国のガバナー、ノミニー約400人が一堂に会して、朝から晩までというよりは、朝食から夕食まで起居を共にしたのであります。

毎年そうであったと思いますが、風俗、習慣の異なる人々がお互いに直接会って、一緒に食事をし、共に語り合うことが、世界の相互理解と平和のために何よりも大切であり、そしてそのことがすべての基本であると、改めて痛感しました。

正直に申しまして、日本語のわからぬ人々と毎日毎日話し合うことは、全く疲れます。

しかし、この疲れこそがR.I.なのだというのが私の率直な所感であります。

- (3) 向笠R.I.会長は、全世界の各地区はすべて環境が異なるわけですから、それぞれ自主的に活動するよう、繰り返し強調されました。全くその通りだと思います。

われわれのロータリー活動も、先輩のご努力によって毎年ますます盛んになり、それを受け継ぐ者として、その責任の重さをひしひしと感じます。

しかし、ここまで諸活動が広がってくるともはや各地区でとてもその全部について手がけることはむづかしいと思います。どうしてもそれぞれの地区、それぞれのクラブで、ある程度重点的にとりあげざるを得ないことになりましょう。

そこで、いささか私見を述べ、ご参考に供したいと存じます。

われわれロータリー組織の最も大きな特長は、世界各地に善意と友好と奉仕の精神に共鳴する約90万人のメンバーをもっていることだと思います。このことは、他のいかなる組織にもない、すばらしいものであります。

他方、われわれのロータリー活動が文部省や厚生省のやるような仕事に熱をあげても限界があります。R.I.にしても、国連のような仕事に取り組んでもなかなか効果はあがらないでしょう。

われわれロータリアンは、自らのこの特長を最も生かすような部門で、また方法で、奉仕の精神を具現化することが最も有効ではないのでしょうか。他のいろいろな組織と比べて時間も経費もより少なくて、しかもより喜ばれる運営は、このあたりにあると思います。今後その具体化について、皆様と共にいろいろ考えてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いします。

1982年国際ロータリー第260地区

地区協議会

昭和57年6月20日(日) 本会議場：飯田文化会館

第1分科会報告——クラブ会長部会

リーダー	ガバナー	加藤直一郎(岡崎南)
アシスタントリーダー	ガバナーノミニー候補	奥沢 俊一(松本南)
アシスタントリーダー	三河第二分区代理	鳥山 幸男(西尾)
アドバイザー	ガバナーエレクト	大隈 孝一(名古屋)
アドバイザー	パストガバナー	神野 太郎(豊橋)



概要

加藤リーダーの挨拶と各リーダー、尾張第一分区以下出席者の紹介のあと、大隈ガバナーエレクトより、国際大会における向笠広次R.I.会長の「“人類はひとつ” 世界中に友情の橋をかけ

よう」について、「人間は30年溯ると10億人が親戚になる。したがって人間は皆、従兄弟である。」との考え方の説明がなされ、更に地区運営について、特に形式化している各事業等を見直して簡素化して成熟時代に沿ったロータリー活動をクラブ単位で考えよう等の見解発表と協力要請がなされた。次に奥沢アシスタントリーダーの挨拶。加藤リーダー、鳥山アシスタントリーダーより、会長としての心構えについて、「計画立案に際しては10年先を考えた上でその一環として対処すべきである。又、小さい問題にとらわれず、ロータリーは完成されたものとして考えるのではなく、絶えずイノベーションを図っていくべきである。」という主旨の説明があった。

第2分科会報告——クラブ幹事部会

リーダー	地区幹事	中村 繁男(岡崎南)
アシスタントリーダー	尾張第一分区代理	山田 昇平(名古屋中)
アシスタントリーダー	次期南信第二分区代理	久保田元次(箕輪)
アドバイザー	次期地区幹事	伊藤 光(名古屋)
アドバイザー	地区会計長	中根 義雄(岡崎南)
アドバイザー	次期地区会計長	服部 英一(名古屋)
パネラー	次期ロータリーの友委員会委員長	神谷 昭司(高浜)



概要

司会は中村繁夫地区幹事(岡崎南)。地区87RCにアンケートを出した。その返事24通のみ。その内、5通に質問が記入してあったと報告あり。(1)RCの例会の形式は定められているのか。そのようにしなければならないのか。次期ロータ

リーの友委員長答弁：日本のRCがパターン化しているのは面白くない。外国のも参考にしてユニークなものにしても良いのではないか。(2)会員増強の量と質をどう考えるか。山田尾張第一分区代理答弁：大・中・小のRCの間で重点が違うのではないか。拡大ではなく、あくまで増強であるので、その意味を理解してほしい。

(3)地域の産業構造によって職種が非常に片寄る職業分類の在り方。神谷氏答弁：RCで同志的結合のできやすいのは、同業種は1割以内であるべきだ。それ以上は同業組合になってしまう。

中根地区会計長より、会計の問題、予算の使われ方の現況報告があり、ニコボックスのお金は一般会計の中に入れないで奉仕部門に入れるよう指示があった。

第3分科会報告——クラブ奉仕部会

リーダー	バストガバナー	山田市三郎(名古屋南)
アシスタントリーダー	東北信分区代理	宮本 照高(中 野)
アシスタントリーダー	次期尾張第二分区代理	福田 浩三(名古屋空港)
アドバイザー	バストガバナー	安野 譲次(一 宮)
パネラー	次期クラブ奉仕委員会小委員長	福田 源一(江 南)



概要

クラブ奉仕の目標は綱領第1の奉仕の機会として知り合いを拡めることの実践にある。したがって、親睦を拡め、例会を成功させるためには、①出席は義務と考えるのではなく、権利と考える方が良いのではないか。②親睦は好意と友情をもとに老・壮・青のバランスを考えるべきである。③ロータリー情報・会報は新入会員に対するPRをもっと強化すべきである。④SAAは、会員に対する事務局の連絡事項は卓話にかからないように…。⑤職業分類は充填・未充填を常にはっきりさせる。⑥会員増強は若い人を増すよう努力し、⑦会員選考は人柄を最も重視し、良き会員を獲得するよう努めるべきである。

第4分科会報告——職業奉仕部会

リーダー	パストガバナー	北野 幾造(長野)
アシスタントリーダー	南信第一分区代理	大宮 貞男(諏訪)
アシスタントリーダー	次期三河第二分区代理	平岩 信三(安城)
アドバイザー	パストガバナー	滝沢 卓夫(松本)
パネラー	次期職業奉仕委員会小委員長	水野 民也(名古屋東)



概要

リーダーから職業奉仕については、各々の職業に誇りを持ち、地域のニーズに応え職業を通

じて社会に貢献する、即ち個々の職業を通じて地域および地域の人々に奉仕する……奉仕とは実践であると明解な説明があり、その後、アシスタントリーダー、アドバイザーからも実例に基いて職業奉仕の具体的なアドバイスがあった。その後、質疑応答があり、その中で特に低成長の厳しい時代に対応するため、ロータリアンとしては自己の職業の維持、発展のために一層努力が必要である等、活発な意見交換があった。最後にリーダーより、愛知県内のエレクトロニクス関連企業からの入会を積極的に進めてほしいとの要請があった。

第5分科会報告——社会奉仕部会

リーダー	パストガバナー	原 享二(飯田)
アシスタントリーダー	尾張第二分区代理	奥谷 博俊(尾張旭)
アシスタントリーダー	次期三河第一分区代理	宮地 信尚(豊川)
アドバイザー	パストガバナー	近藤友右衛門(名古屋)
アドバイザー	パストガバナー	藤原 正男(諏訪)
パネラー	次期社会奉仕委員会小委員長	野沢東三郎(豊橋北)



概要

原氏より、地区協議会の意義と社会奉仕活動の理念についての説明があり、本年度の重点施策として2つの問題が討議された。

(1)環境保全……野沢氏より、29都道府県に及ぶ530運動の経過説明と、自分達が被害者であるとする前に、自分達も加害者の一人であるという認識の下に、点から面へと広汎な市民運動を推進する必要性が述べられた。

藤原氏よりは、湖・河川の浄化問題についても、行政による措置と住民運動の両面から、これを進めるべきである。しかし、環境保全問題は、運動を進める中でクラブ内ならびに隣接クラブとの友好・親睦関係を損わないように配慮すべきである旨の意見があった。

(2)保健問題……老人問題と身障者対策について、奥谷氏は、肉体的にも精神的にも健やかに老いていくための環境づくりに協力すべきである点を、宮地氏は、身障者の社会への完全参加のためにも、疎外感を与えず、共に話し相談相手になることの重要性を強調された。

第6分科会報告——青少年奉仕部会

リーダー	パストガバナー	川瀬 保(名古屋南)
アシスタントリーダー	南信第二分区代理	山下 喜助(飯田南)
アシスタントリーダー	次期尾張第一分区代理	相羽 鎰一(名古屋和合)
アシスタントリーダー	次期東北信分区代理	矢島 謹一(上田東)
アドバイザー	パストガバナー	佐藤 知雄(名古屋東)
パネラー	次期青少年奉仕委員会副委員長	山内 彊(豊橋北)
パネラー	次期ローターアクト委員会委員	野口 政一(一宮)
パネラー	次期インターアクト委員会小委員長	池上 真通(松本南)



概要

青少年の健全育成の問題はいつの時代においても重要な課題であるが、今日ほど益々その重要性を痛感させられる時はない。特に高校生、中学生年令の家庭内や校内暴力問題の多発や生活態度の乱れは国や世界の将来を憂慮せざるを

得ない状況に至っている事を深く認識し、ロータリーは積極的に青少年問題に対処する必要がある旨の川瀬リーダーと佐藤アドバイザーの発題に基づいて、熱心に各RCの奉仕の実践や課題について発表や報告が行なわれ、クラブとしては勿論、会員個人も青少年のためにでなく、青少年とともに保全育成の課題に取り組むべきことを学びとった。

地区内I.A.C.、R.A.C.の現況や新たに結成準備中の提唱RCから報告が行なわれ、いわばロータリーの直営的この事業に対し、各RCの積極的参加が問われた。

青少年問題の対応は青少年奉仕委員会だけでなく、社会奉仕や職業奉仕の両委員会とも協力して、クラブをあげてすべき事が強調された。

ROTARY BASIC LIBRARY (ロータリー基本叢書：仮称)

7冊1組の英語版が今度新しく出来ました。日本語訳のものは来年春頃に出版の予定ですが、英語版購入希望の方は直接R.I.中央事務局へご注文下さい。代金は米ドル14.50です。郵送され

ますので日数が多少かかります。

R.I.中央事務局

〒160 東京都新宿区四谷3-11 山一ビル2階

☎03-355-5391

第7分科会報告——国際奉仕・ロータリー財団部会

リーダー	パストガバナー	森 泰樹(豊 橋)
アシスタントリーダー	三河第一分区代理	永田六兵衛(新 城)
アシスタントリーダー	次期南信第一分区代理	山岸 紫朗(松 本)
アドバイザー	パストガバナー	鮎谷賢太郎(名 古 屋)
パネラー	次期国際奉仕委員会副委員長	下郷弥太郎(名古屋東南)
パネラー	次期青少年交換委員会小委員長	加藤 一三(名古屋北)
パネラー	次期米山奨学委員会委員長	河合 利周(名古屋北)



概要

森泰樹リーダーより、R.I.会長のテーマ「人類はひとつ」という理念を実践するため、R.I.地区、クラブ、個人の各レベルで国際奉仕活動を更に充実させるよう呼びかけがあり、まず地区レベルでの活動について次の如く、各パネラ

ーより報告された。①**青少年交換**：7月25日の締切りで現在交換学生を募集中。②**W.C.S.**：発展途上国に対する援助を活発に展開。③**組み合わせ地区**：57年度より451地区のブラジルとの組み合わせが決定。

次に、米山奨学会は文部省の奨学制度を上廻る順調な活動を続けているが、ロータリー財団については本年4月末における寄附状況が芳しくなく、鮎谷P.G.より、財団に対する一層の理解と協力が強く要請された。

最後に、各クラブの国際交流の現況に関する報告があり、軽井沢における公益信託による奨学基金制度などが紹介され、又、地区内における国際委員長会議の運営についても報告がなされた。

地区大会のごあんない

第260地区年次大会は

- 9月24日(金) 会長代理歓迎晩餐会ほか
- 9月25日(土) 本会議第1日 夕刻希望晩餐会
- 9月26日(日) 本会議第2日 夕刻観劇
- 9月27日(月) 和合親睦ゴルフ会

の日程にて、名古屋市民会館他にて挙行されます。実質的に意義ある大会とすべく企画されています。世界の現況に鑑み最もふさわしいテーマ「人類はひとつ…」を掲げられたR.I.会長・向笠先生を大いにバックアップしていただき、ロータリアン他多数のご参加により、大きな友愛の輪となって日頃の私共の奉仕マインドの高さを顕わすことができますよう、ホストクラブでは念願しています。(ホスト 名古屋北RC)

お 願 い

例会出席報告について

クラブ出席報告につきましては、従来、R.I.本部の勧めにより、最終例会後、直ちに報告となっておりましたが、地区協議会における大方のクラブのご希望を重んじ、1982年7月からは、翌月第1週迄のメイキャップ修正分を加え、当月の出席率といたしますので、ご了承下さい。

つきましては、翌月遅くとも8日迄に、なるべく早く出席報告の発送をお願いいたします。

(序ながら国内大半の地区では実行中です)

(地区幹事)

地区ニュース

★大隈ガバナー公式訪問スタート

7月9日(金) 本年度の公式訪問は、年次大会
ホスト名古屋北クラブから始まった。

★国際ロータリー第260地区1982～1983年度 第1回諮問委員会は、

7月10日(土) 11:30AM～14:00PM

名鉄グランドホテル12階「菊の間」で開催さ
れた。

議 題

- ①1981～82年度地区資金会計及び特別会計決算
報告承認の件
- ②ガバナー・パストガバナー懇談会並びにガバ
ナー連絡会議(7月1日)報告
- ③1982～83年度地区年次大会の件
- ④地区行事予定の件
- ⑤1984～85年度地区協議会及び地区年次大会候
補地の件
- ⑥1984～85年度ガバナーノミニー候補選出の件
- ⑦地区拡大増強の件
- ⑧1982～83年度意義ある業績賞選考委員選定の
の件
- ⑨オンツートロント委員会設置の件
- ⑩その他

組み合わせ地区

当260地区の1982-83年度から1984-85年度に
至る3年間の相手地区は、451地区ブラジルです。

451地区はブラジルのサンパウロ市の一部で、
40クラブで1,135名の会員を擁しています。1982
-1983年度ガバナーはMáris Guerreiro de Ca-
stro, Baurú Norte, S.P., BRAZILです。

●月信1号7頁記載のザ・ロータリアン購読料
は(7月～12月の6ヶ月分)1口につき833円(米
貨\$3.50)に、国際ロータリー文献事務所の住
所は、日本支局内と訂正願います。

●国際ロータリー第260地区 1982-83年度地区行事予定

開 催 日	行 事	ホスト	場 所
1982年7月25～26日	インターアクト地区協議会	岡 崎 南	蒲 郡
8月28日	第2回地区諮問委員会		名 古 屋
9月24日	第3回地区諮問委員会		名 古 屋
9月25～26日	1982-1983年度地区年次大会	名古屋北	名 古 屋
1983年2月～4月	I G F (各区分)	別 記	別 記
3月	R.I.規定審議会		モナコ
5月26～6月3日	1983年国際協議会	R.I.	ボカトーン
6月5日～8日	1983年国際大会	R.I.	トロント
6月19日	1983年地区協議会	あ ま	名 古 屋

●1982-83年度I.G.F.日程

開 催 日	行 事	ホストRC	開催地
	1982-83年度I. G. F.		
1983年2月11日(日)	尾張第一分区(相羽分区代理)	和 合	名 古 屋
3月6日(日)	三河第二分区(平岩分区代理)	岡 崎 南	岡 崎
3月27日(日)	尾張第二分区(福田分区代理)	瀬 戸 北	瀬 戸
4月10日(日)	南信第二分区(久保田分区代理)	駒 ヶ 根	上 穂 南
4月17日(日)	東北信分区(矢島分区代理)	中 野	中 野
4月29日(金)	三河第一分区(宮地分区代理)	渥 美	伊 良 湖

橋シリーズ② (ターゲットに因んで橋の写真を連載します)

ブルックリン橋

スパン長さ486mという長大吊橋、ブルックリン
橋は、1869年から83年にかけて、レープリング
父子の努力によってニューヨークのイースト川
に建設された。この橋は鉄鋼製の平行線ワイヤ
ーをたばねた4本のケーブルを持っている。

